

令和元年度 大阪府立今宮高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

【日 時】令和元年6月8日（土）15:40～17:00

【場 所】大阪府立今宮高等学校 校長室

【委 員】吉村 和彦 芦屋大学特任教授 元今宮高等学校長
向井 秀俊 大阪市立木津中学校校長
山本 英夫 戎橋筋商店街振興組合 事務局長（欠席）
川島 経正 自彊会（本校 同窓会）会長
宮崎 次郎 本校 後援会会長
阪田 全弘 本校 P T A会長

【事務局】校長、教頭、事務長、首席

【内 容】 1 校長挨拶
2 学校運営協議会委員及び事務局員紹介
3 会長・副会長選出
4 事務局からの報告

- 学校運営協議会への意見について
- 本年度の取組について

学校長より、「平成31年度学校経営計画」説明

- ① 系列の重視「学ばなければならないことを学ぶ今宮」へ
- ② 家庭学習の徹底
- ③ 授業アンケートの改定
- ④ キャリア教育の充実（SDGsの取組みの推進等）
- ⑤ 「自主規制」の精神の再認識

- 体育活動等における熱中症予防について
- 教科書採択について

【説明・意見等】

○質問・意見

- ・政府の「教育再生実行会議」の提言内容は、7割が普通科高校の改善についてであった。それらはほとんど、すでに総合学科で実施していることである。また、「総合学科」の内容は一般には分かりづらい。「総合学科」を選ぶ子どもは部活や伝統に注目する。どのような子どもたちに入学してもらいたいのか、アピールはできているか。

回答

- ・1年生では2/3が国公立大学を志望しており、本校のイメージも進学校である。一般的な「総合学科」のイメージとはギャップが大きい。今後、外部に向けても、大学進学型の総合学科であることを打ち出し、また、それが今宮高校のミッションだと捉えている。

○質問・意見

- ・改革が成功するためには、実績がポイントになるだろう。
- ・経営哲学がなく、形式的なことだけを変えようとするような「改革」ならば失敗する。
- ・実績を上げるためには戦略が必要である。同窓会からの応援があれば大きな力添えになると思う。
- ・普通科への変更は考えていないか。

回答

- ・普通科への変更は考えていない。高大接続改革が進められている現在、総合学科の時代が来ていると思う。総合学科の始まりとともにあった「産業社会と人間」「課題研究」は思考力・判断力・表現力を伸ばし、自分が社会に貢献できることは何かを考えることに非常に適していると考えている。

○質問・意見

- ・普通科でも多様な学びを取り入れる方向へ進んでいる中、どのように進学にコミットしていくか。

回答

- ・国公立大学も総合選抜枠が大きくなっていく。進学の観点からも、今後ますます「産業社会と人間」「課題研究」などの学びが重要になると感じている。

○質問・意見

- ・総合学科は特色のある教育を実施しやすい。入ってくる生徒の力をしっかりと伸ばせる学校であることがハッキリと分かるイメージを打ち出せばよい。

回答

- ・「学ばなければならないことを学ぶ今宮」「守るべきことは守る今宮」に変わるべく改革中であることを学校紹介で説明している。また、総合学科にはいろいろな面白いしくみがある。現在、活かし切れていない部分もあるが、社会問題に対して目を向ける姿勢を育てることが必要であると強く感じている。

○質問・意見

- ・アクティブラーニングが表面的な形だけで輸入されている。生徒の社会性を育てるには、まず教員の社会性を育てる必要がある。
- ・自分が受けていた受験校の詰め込み教育がイヤで、そうでない授業をしたいと思って教員を志望したという学生が増えてきている。積極的に生徒の意見発表の場を設けるなど、小中学校で充実したアクティブラーニングの授業を経験してきた生徒の力を引き出すような授業をしてほしい。

回答

- ・アクティブラーニングについては、表面的な理解にとどまらず、理論的に深く学ぶ必要がある。「課題研究」についても、テーマ設定の指導がうまくできていない部分がある。「課題研究」は受験勉強と対立するものではなく、高校3年間の卒業論文であり、さらに、大学での学びの先取りとなるようなテーマ設定の指導をしなければならないと考えている。

○質問・意見

- ・卒業生は今宮での生活は楽しくてためになったと言っている。母校愛が育まれていることはたいへん素晴らしいことである。
- ・個性的な卒業生を輩出してきた今宮高校のリベラルな雰囲気を受け継いでほしい。

< 次回予定 >

第2回 11月9日

第3回 2月7日